

# 顔の系統が服の魅力に与える影響

○木口ゆらら 橘高愛 横山稀夕（指導教員 西村聡生）

（安田女子大学心理学部）

## 研究の目的

服の魅力は、着用者の顔の魅力により影響を受ける。新美・山田（2020）は、女性が着用している T シャツの魅力評定において着用者の顔の魅力が影響することを示し、服の魅力来判断する際には非意図的・自動的に処理される顔の魅力の情報による文脈的影響を受けていると論じた。本研究では、着用者の顔の特性による服の評価への影響について、顔の系統および服との印象の類似性に着目した。かっこいい系と可愛い系の女性顔を使用し、かっこいい系の顔が似合うと考えられるモード系、可愛い系の顔が似合うと考えられるガーリー系、そしてボーイッシュ系の服の魅力判断への影響について検討する。

## 方法

安田女子大学生 105 名が Google フォームで、女性が着用しているモード系・ガーリー系・ボーイッシュ系各 3 種類の首から下のコーディネートについてそれぞれ、服の魅力度を 7 段階で回答した。その後、かっこいい顔と可愛い顔が付加された各コーディネートについて、服の魅力度と似合っている度合いをそれぞれ 7 段階で回答した。かっこいい顔と可愛い顔は、各系統で魅力が高いと考えられる 3 人の女性の顔の平均顔であった。最後にかっこいい顔と可愛い顔についてそれぞれ、可愛い（1）～かっこいい（5）の 5 段階で評定した。

## 結果

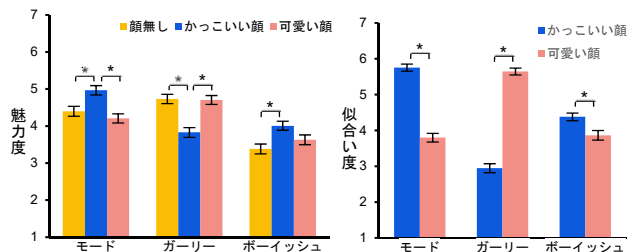
かっこいい顔はかっこいい（4.67）と、可愛い顔は可愛い（1.36）と評価されていた。

服の魅力度について、顔（無し、かっこいい、可愛い）と服の系統（モード、ガーリー、ボーイッシュ）を参加者間要因とした分散分析を行ったところ、交互作用は有意であった（ $F(4, 416) = 36.68, p < .001$ ）（図 1 左）。モード系の服は、かっこいい顔と呈示された（4.96）方が、服だけで（4.40）やかわいい顔と呈示された（4.21）場合よりも魅力的だった（ $ps < .001$ ）。ガーリー系の服は、かっこ

いい顔と呈示された（3.83）方が、服だけで（4.73）や可愛い顔と呈示された（4.70）場合よりも魅力的でなかった（ $ps < .001$ ）。ボーイッシュ系の服は、かっこいい顔と呈示された（4.00）方が、服だけで呈示された（3.38）よりも魅力的だったが（ $p < .001$ ）、どちらも可愛い顔と呈示された場合とは有意差は認められなかった。

似合い度について、顔（かっこいい、可愛い）と服の系統（モード、ガーリー、ボーイッシュ）を参加者間要因とした分散分析を行ったところ、交互作用は有意であった（ $F(2, 208) = 321.57, p < .001$ ）（図 1 右）。モード系の服は可愛い顔（3.80）よりかっこいい顔（5.75）の方が（ $p < .001$ ）、ガーリー系の服はかっこいい顔（2.95）より可愛い顔（5.64）の方が（ $p < .001$ ）、ボーイッシュ系の服は可愛い顔（3.86）よりかっこいい顔（4.38）の方が似合っていた（ $p = .003$ ）。

図 1. 服の魅力度（左）と似合い度（右）



## 考察

かっこいい顔では、似合うと評価されたモード系・ボーイッシュ系の服の魅力は高く、あまり似合わないと評価されたガーリー系の服の魅力は低く評価された。かっこいい系の顔の女性が着用している服の魅力は、どれくらい似合っているかに影響を受けると考えられる。一方、可愛い顔では、全ての服の系統において、似合うかどうかに関わらず、服だけの場合と魅力は変わらなかったため、服の魅力来判断する際には可愛い系の顔が想定されているのかもしれない。服の魅力の判断は、着用する人の顔の魅力（新美・山田，2020）だけでなく、顔の系統にも影響されることが示唆された。